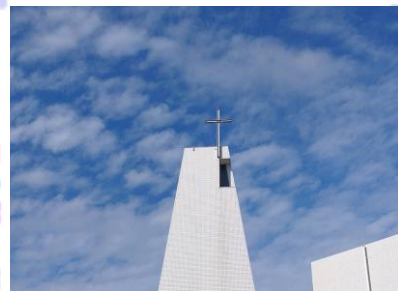


神戸国際大学
キリスト教センター通信
第132号
2025年6月17日

「小さなはばたき」

神戸国際大学レイチャプレン
八代良寛



みなさんは、「バタフライ・エフェクト」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？

これは、「ブラジルで一匹の蝶が羽ばたくと、テキサスで竜巻が起きる」というちょっと不思議なお話から生まれた言葉です。日本にも「風が吹けば桶屋が儲かる」という同じような意味のことわざがあります。小さな出来事が時間をかけて連鎖し、最終的には全く想像もつかないほど大きな結果につながる、という考え方です。もともとは気象学の理論ですが、私たちの生活にあてはめて考えてみることでいいでしょうか。

たとえば、誰かに「おはよう」と声をかけること。授業の最後に「ありがとうございました」と伝えること。廊下で落ちているゴミを拾うこと。こういった行動は、とても小さく、誰かに褒められたり、評価されたりすることは少ないかもしれませんが、でも、そうした小さな行動が、誰かの気持ちを軽くしたり、自分自身の心の在り方を育てたり、周りの空気を少しずつ変えていくことがあります。

実際に、「あのとき声をかけてもらって救われた」「あの一言で、頑張ろうと思えた」と語る人はたくさんいます。本人は思い出せないほど何気なくした行動が、誰かの心にとっては忘れられない出来事になる、何気ない一言が、誰かににとっては人生を左右するような出来事になることがあります。「これくらいのこと、やらなくても変わらない」と思って手を抜くのではなく、「これくらいのこと」と思える小さなことを丁寧に言う人が、まわりに静かな影響を与えていくかもしれません。

学校でも社会でも、「目立つこと」「大きな成果を出すこと」が取り上げられやすい時代です。でも、本当に大切なのは「続けてきたこと」「誰にも見られていなくても大事にしてきたこと」です。表には見えなくても、誰かが見てくれていることもあります。そして何より、自分自身がそれをちゃんと知っています。地道に続けてきた努力、丁寧にやってきた行動、日々の小さなルーティン、そういったものが、人生の根っこを深く強くしてくれます。派手さはないけれど、時間をかけて積み上げてきた人の言葉や姿には、どこか人を惹きつける力があるものです。

またその中で、「自分は何が好きなのか」「何を大切にしたいのか」も少しずつ見えてくるかもしれません。他人の評価やランキングでは測れない、自分なりの価値観が育っていくと思います。もちろん、失敗することや、思うようにいかないこともあるでしょう。そんなときは、無理にがんばろうとせず、まずは「小さな行動」に立ち返ってみてください。たとえば、今日一日、穏やかに過ごしてみる。身のまわりを少し整えてみる。しっかりと寝て、体を休める。そんな一歩一歩が、また前を向く力をくれることでしょう。

バタフライ・エフェクトの蝶のように、あなたの何気ない小さな羽ばたきが、竜巻を起こすような大きな影響を与えるかもしれません。

ひとくちメモ

聖書の原文は主に2つの言語で書かれています。旧約聖書はヘブライ語、新約聖書はギリシャ語です。本学内のどこかにどちらかの言語が書かれているのを知っていますか？試験前などに利用している人が多い場所にあります。気になる人はみてください。

